

調査者	岡本 祥吾
情報ソースの刊行日	2020年4月14日
情報ソースの調査日	2020年5月5日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月6日
日本語タイトル	COVID-19 パンデミック時の高齢者における孤独感と社会的孤立： 老年学のソーシャルワークへの影響
情報ソース	孤独感、COVID-19 パンデミック、社会的孤立、生活の質、うつ病
情報のカテゴリー	The Journal of Nutrition、Health&Aging
発信地域	アメリカ
DOI	10.1007 / s12603-020-1366-8
URL	https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/32346678/
要約	<p>・高齢者の3分の1近くが孤独感や社会的孤立感を感じ、そのうちの5%が頻繁あるいは常に孤独を感じていると報告されている。これらは長期的に身体的・精神的健康上への影響を与えるとされ、高齢者を中心に永続させない必要がある。</p> <p>今回の COVID-19 パンデミックにおいて社会的な問題が注目され、以下のイタリアの老年医は最前線に立ってきたソーシャルワーカーらの行動を参考に新しい知識と認識を得るよう願っている。</p> <p>・高齢者は、支援ネットワークや保健福祉サービス提供者との繋がりが不可欠。しかし、シェルターや自宅待機の指示により、対面での連絡が困難で一人の時間が増えてしまう →個々の機器やテレビ電話による家族や友人とのつながりを維持するための支援。毎日の電話での安心コール、宅配サービス、バーチャル・電話での訪問診療の促進。</p> <p>・有意義な活動を展開し、適切な距離で利用できるような「Biongocise」などのグループアクティビティを提供。</p> <p>・入居者の毎日の最新情報を家族に提供するためのフェイスタイム、Whatsapp、skype、ズームなどの様々なデジタル・アプローチの活用。</p> <p>また、老年労働力強化プログラム (GWEP) チームが Circle of Friends©というエビデンスある3ヶ月のグループ介入(アートや感動的な活動、エクササイズや健康に関する内容)もある→結果として孤独感、社会的孤立感、医療費の減少と幸福の感情の増加を認めた。</p> <p>最近では、孤独感を軽減するための「アレクサ」や様々な健康ロボットの利用も増加している。</p>
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか？	<p>・現在、自宅待機や緊急事態制限中である中で、高齢者においては身体的・精神的や支援としてオンラインでの対応が求められる。今後対応として、への COVID-19 の維持や予防のための介入(オンラインでの運動指導)として参考にできる部分があるも考えられる。</p>